

景観まちづくりかわら版

浦添市景観まちづくり市民会議

発行日:平成 18 年 10 月 30 日発行
発行者:浦添市景観まちづくり事務局
(浦添市都市計画部美らまち推進室)
TEL:876 - 1234(内線 4061~4064)
FAX:879 - 7138
E - Mail: tyuramachi@8761234.jp

第 3 号

第 3 回浦添市景観まちづくり市民会議は、10 月 10 日(火)に浦添市役所 9 階講堂で開催され、市民会議の委員 15 名をはじめ、都市計画課や文化課等の市の担当職員が参加しました。前回は、本市の景観まちづくりの目標や理念等を設定するために、前々回の各グループの「特性と課題」を踏まえて、全体会議のなかで「特性(らしさ)と課題」のキーワードについて、意見交換等を行いながら、「特性と課題」を抽出・整理しました。その主な内容を以下に紹介します。



全体会議は池田代表による進行のなかで、意見交換等が行われた。

< 目標や理念等の設定のための特性(らしさ)と課題について >

- ・ キーワードを抽出・整理する場合、一般的な表現ではなく、浦添市の特性(らしさ)や個性を踏まえた表現にしてほしい。例えば、「浦添グスクを包む緑」、「琉球発祥の地」、「神と自然を結ぶ為朝岩(ワカリジー)」など。

~ 自然(緑・海岸・河川)・ランドマーク等 ~

- 浦添を取り囲む緑の稜線・骨格について
- ・ 本市の緑の稜線・骨格は大切であり重要である(保全・回復・活用していく必要がある)。しかし、高層マンションや墓地の課題も抱えているが、これは別の観点から取り組んでいく必要がある。
- ・ 浦添グスクを取り囲む緑の稜線・骨格は、地形の変化による緑の稜線や骨格、見え隠れする緑等が浦添らしさとなっている。
- ・ 緑の稜線・骨格と身近な暮らしの中にある街路樹や沿道の松並木等は、キーワードとして分けた方がいいのでは。
- ・ 緑は本市の景観形成を考える場合、1つのキーワードとなる。
- ・ 植樹祭や浦添城址まつり等のイベントを通して、緑化をPRし、市民による緑化づくりが必要である。



キーワードを考えている市民会議の様子

自然海岸・河口部や河川について

- ・ カーミージー(空寿崎)は、市内に残る「希少な自然海岸」である。保全・回復を図りつつ、活用していく視点も大切であえい、「市民生活と密着したリーフ海岸」としたらどうか。
- ・ また、河川沿いや河口部には緑も残っているところもあるので、「緑と水の豊かな河川・河口部」の保全・活用をキーワードとしてあげてもいいのでは。
- ・ 一方で、カーミージーだけでなく、その背後地についてもあわせて考える必要がある。
- ・ また、西海岸開発計画では今後どのようなようになるのか。資料が頂ければと思う。

浦添らしさを象徴するランドマーク等について

- ・ ランドマークについては、市内で唯一、為朝岩(ワカリジー)から、太平洋と東シナ海がみえるビューポイントである。また、読谷村の座喜味グスクから為朝岩が見える。東西から見えにくい、南北から為朝岩やその緑の稜線がみえ、本市のランドマークの1つではないか。
- ・ 公共施設や大型施設は景観的に問題があるかもしれないが、ランドマークになるが、規制していくのか、象徴的なものにしていくのか、検討が必要。
- ・ 為朝岩は、海から太陽が昇るときに為朝岩の間に太陽がみえ、神秘的なところでもある。「神と自然をつなぐワカリジー(為朝岩)」をキーワードとしても良いのでは。
- ・ 市全体的に海に面して斜面地となっているため、海への眺望が開けているところもあるが、高い建物等が阻害しているところもある。海への眺望を確保する必要があるのでは。



緑から飛び出ている部分が為朝岩(経塚からの眺め)

~ 歴史・文化、集落等 ~

- ・ 琉球王朝発祥の地、拠点となる浦添グスクおよび周辺の多くの文化財群、仲間地区のまちなみの保全・再生、その他の伝統的集落の育成・形成、当山の石畳道等の宿道(歴史の道)は4つに分けて良いのでは。性格の異なる面や拠点、それらの拠点や面等をつなぐ(道)といった視点が必要だろう。
- 浦添グスク等の文化財群等について
- ・ 浦添グスクの整備を進めており、将来的には世界遺産の追加登録を目指していると聞いているので、「琉球発祥の地」という表現は入れたほうが良い。(浦添の歴史や文化を語る上で、重要である。)
 - ・ 浦添グスクのバッファゾーンとして、前田・経塚等は含めないで良いのか。
 - ・ 松並木やカー(井戸)等の復元・整備はできないか。



グスクのまち・仲間らしいまちなみ

- ・浦添グスクやの麓にある仲間地区は「まちなみの保全・再生」といった方向性やキーワードを表現したほうが良い。
- ・浦添グスクの城下町であり、仲間樋川をはじめ、多くの御嶽・拝所等の資源が残っているので、保全・活用していくことが大切。
- ・赤瓦にすると、固定資産税が上がってしまうので、固定資産税減免等ができれば、普及するのでは。

その他の伝統的集落や歴史的文化的資源の掘り起こし等

- ・仲間以外にも、地域ゆかりの水・緑があり、育成・再生の方向性・キーワードで展開したらどうか。
- ・沢岬や勢理客、内間では、祭りが盛んであり、暮らしの中にあるまつりやイベント等を今後の浦添の地域の掘り起こしのひとつとして拾っていくことも重要である。
- ・仲西、屋富祖、城間の地域には文化財が残っているが、住宅地にあり、わかりづらく、資源が活かされていない。



~道路・沿道景観や道づくり、看板・サイン、夜景、身近な緑、建築物等の誘導等~

- ・公共施設には、建物や道路があるが、道路は別格で扱った方が良い。
歩いて楽しい道づくり等について
- ・港川S×Lの沿道景観のつくり方（敷地内緑化やセットバック等）や仲間地区のコンクリート塀の緑化をみると、沿道景観がかなり変わってくる。景観上で重要なことであり、市民が主体となって沿道景観をつくるのが大切である。
- ・一方通行等にすると、歩道部分に空間的にゆとりがでる。道路残地等も含めて、植栽や市民の憩いの場等の創出など、市民のオアシスポケットパークを推進したらどうか。



- ・浦添の顔をつくる場合、国道58号があるが、国道330号が取り組みやすいのでは。国道58号は民間・企業がつくる沿道景観であり、商業的な要素が大きく、浦添らしさをつくるのは難しいのではないか。

夜景、ライトアップ、サイン等

- ・伊祖トンネル前の公園のライトアップや仲間地区からの市内の夜景は美しい。
- ・しかし、国道沿いのネオンサインが派手で気になる。（阻害していないか）

暮らしのなかの緑について

- ・緑の稜線・骨格と身近な緑は別にしたほうが良い。生活に潤いをあたえる緑等がキーワードとなってくる。
- ・那覇市では屋上緑化について補助しているが、あまり普及していない。大きな施設に絞ってから、民間の施設の緑化を広げていく方法もある。
- ・多くの人が集まったり、利用するところ、バス停や道路等の緑化に取り組んでも良いのでは。

建物の色・形態等について

- ・起伏があって緑がある浦添では、それを背景として、建物の色、市の基調色を決める考え方が良いのでは。
- ・建物の色が派手にならないように、誘導・指導してほしい。
- ・屋根の防水工事の際に、最近では黄緑色等もある。眺望の良いところからは、屋根は見えるので、防水工事の際に使用するカラーをある程度、規制しても良いのでは。
- ・サンフランシスコでは高さや向き等の規制する条例がある。
- ・公共の建物から、先導的な取り組みを展開したらどうか。
- ・高層マンションの誘導等については、都市計画とあわせて取り組む必要がある。

~景観まちづくりの推進、市民活動等への支援、しくみづくり~

- ・浦添市独自の表彰制度（都市景観賞・まちづくりプラン賞）等は、普及しており、市の財産にもなっている。景観行政の取り組みとしても、必要である。
- ・地域の小公園や環境を整備することで景観的にも良くなる。地域活動は良好な景観を形成する根本的なところであり、専門家の派遣など、地域コミュニティの支援が必要である。
- ・市民が良好な景観形成に向けた行動をしなければならない。市民が景観に対して理解し、学習するか。市民自らで将来の浦添市を描いていくか、そのシステムづくりが大切である。
- ・地域によって様々と思うが、昔は広場があったり、景観的な資源があったり。地域が親しんでいた空間の復元や次世代に残すための地域の取り組みも結構あるので、地域の掘り起こしや情報交換の場をつくったり、地域活動への支援が必要である。